

JAとりで総合医療センター

Topics for Residents -2-

街にクリスマスツリーが飾られ、クリスマスソングが流れる季節になりました。今年もあと少しで暮れようとしています。そんな世間の喧騒とは別に、皆さんは冬休前の実習や試験？に忙しい毎日を送られていると思います。

私を含めて大学の医局に属している者にとって、この季節は来年度の人事編成が行われている時期もあり、来年度の勤務先がどこになるのか不安を持ちながら診療している、ちょっと落ち着かない時もあります。

当院で研修している2年目研修医は5名いますが、彼ら彼女らもまた入局、入職への不安を持ちながら最後の研修を行っています。幸いに5名全員、希望通りに入局、入職することが出来ました。2人は出身校や地元に戻って大学医局に入ることになり、その他は当院の母体というべき東京医科歯科大学の医局に入局する者、専門的な技術を身につけたくある領域に特化した専門病院に就職する者、そして厚生労働省で医療政策に関わろうと官庁に就職する者とバラエティに富んだ就職先となりました。各人が悩んで決めた道です。有意義な仕事が出来るように応援したいと思っています。

そして皆さんもまた、来年度のマッチングに向けていろいろと情報を収集しながら悩み始めている頃でしょう。万が一、自分の決めた道が間違った、失敗したとしても、取り返しは十二分に出来ます。けど、折角の人生ですから、目一杯悩んで決めて下さい。これから本格的な冬になります。身体には十分気を付けて頑張って下さい。それでは良いお年を。

第64回日本農村医学会学術総会にて当院研修医の佐々木先生が口頭発表

平成27年10月22、23日、秋田市で第64回日本農村医学会学術総会が開催された。本学会は毎年10月に開催される。臨床研修医セッションが設けられ、日本中の厚生連病院から研修医の発表があり、素晴らしい発表に対して優秀賞が与えられます。当院からは2年目の佐々木先生が「長期的なリハビリテーションにより義足歩行が可能となった急性感染性電撃性紫斑病の1例」を発表しました。リハビリ関係で賞は取りにくい内容でしたが、堂々とした態度で発表を行い、しっかりとした質疑応答も出来ていました。当院2年間の研修は、決して他の大病院に引けをとるものではないことを改めて実感しました。来年はサミットが開かれる伊勢志摩で学術総会が開催されます。次回も自信に満ちた発表を聞きたいものです。



文責 富満弘之